

平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）【概要】

日時：平成29年7月10日（月）午前10時から正午まで
場所：千葉県教育会館6階 会議室604

1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司，小野寺 利幸，藤田 和弘，渡部 徹，羽山 稔彦，関根 寿典，藤ヶ崎 功，佐久間 勝彦，
田中 庸恵（副委員長），齋藤 明（委員長），大谷 岩男，廣部 泰紀，中嶋 のり子，鳥井 みゆき

2 次第

（1）県教育委員会あいさつ

（2）委員紹介

（3）委員長，副委員長選出

（4）報告

①平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果について

②平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜における中学校及び高等学校からの意見について

③平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について

④平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

⑤平成30年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜要項について

⑥平成30年度千葉県公立高等学校「前期選抜」，「後期選抜」等の検査の内容・出題方針について

⑦その他

（5）協議

①平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会の設置について

②平成30年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

③平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

④その他

（6）閉会のことば

3 協議内容

（1）平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会の設置について

・専門部会設置にあたってのこれまでの経緯と県立高等学校入学者選抜方法の主な改善経緯について説明した。

・専門部会を設置し、そこで詳細な検討をし、本会議に報告することについてはいいと思うが、アンケート調査を実施し、その結果から今後の入試が現行の前期・後期の二本立てがいいのか、それとも一本化が望ましいのかを専門部会で検討し、その結果を本会議に報告することは間違っていると思う。

→資料8に26年度及び27年度における調査結果の分析と29年度のあらたなアンケート調査の実施及び分析というのがある。まず、26年度及び27年度における調査結果については、前期選抜において、28年度選抜から専門学科の受検の割合を100%にしたが、この前後を捉えて子どもたちの受検の動向を分析したものである。この受検動向調査で、前期・後期ともに同じ学校・学科を受検した者が約6割、残る4割については、前期・後期で違う学校・学科を受検しているということがわかった。地域的な違い等についてもここに記載してある。また、25年度に実施したアンケート調査の結果では、生徒及び保護者については、2回の受検機会を希望する声が多いという結果が出ている一方で、前期・後期制度において様々な課題があることを踏まえ、この点について、7回実施している今の状況を捉えて、改めて調査をしたいということで、資料9にある調査を提案させていただいた。この調査では、調査に入る前に、協議会で議論いただいている内容を紹介した上で調査をする形として工夫しており、高校生、保護者の方々の御意見を賜ろうというものとなっている。なお、専門部会の協議議題については、県教育委員会で実施する調査の分析とその他校長協会等からの意見あるいはこの改善協議会のこれまでの議論、こうしたものも踏まえながら検討するという事を考えている。

- ・中学校としては、3年生の進路決定に向けての思いを掌握し、その学校を任された校長としてアンケートに記載をするので、学校経営のトップである校長ということよりもやはり入試に対しての全てを把握している立場の者の意見として、その意向やアンケートの結果あるいは改善協のメンバーの意見を尊重していただきたい。
- ・中学校長会の方でもアンケートをとっているので、来年度、是非アンケート結果を出したいと思う。現段階では、校長の7割は一本化ということを考えている。私学協会にもお願いをしているが、私学の入試を含めて早くなっている。公立が前期・後期あるから早くなっている。早くなるということは、それだけ生徒は3学期になると授業が全然できない状況になる。そういうことも踏まえて、さらに先生方の負担が2学期の終わりを含めて、入試の準備さらには普通の成績もつけなければならない、多忙化の原因にもつながっている。中学校の校長としては、一本化の方をお願いしたいということもあるので、専門部会の方にも現場の意見を吸い上げていただけるということなので、是非そちらの方向で進むとありがたいと思っている。
- ・高校の入試は一本化した方がいいのではないかと。(大学では、東大は前期・後期やっていたのが、昨年廃止になった。これまで前期で不合格になった人が受けるので、2度受けてまた落ちるということをつくっていた。)資料1で、3万3千人の入学許可者に対して、2万2千人が前期で合格して入っている。裏返すと1万1千人が不合格となっている。不合格で劣等感をどのくらい持つかは微妙なところだが、後期の受検者は6割が前期で同じところを受けている、後期では違うところから来ているのは4割という話だが、実際受かって来る子はどうか。後期で入ってくる子は前期落ちの子がメインで入ってくるのかどうか。1万1千人の不合格を受ける高校1年生をもっと減らせる。3分の1の中学生に劣等感を与えてしまう入試というのはどうか。
- ・専門部会で協議する内容については、各種意見を取り入れながら協議を進めていく。

(2) 平成30年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

- ・資料9について、あらたなアンケート調査(受検意向調査)として、現在の高校1年生から3年生及びその保護者を対象とした調査を実施する。専門学科等の前期選抜枠の上限が100%までとなった受検生である現高校1・2年生と変更前の受検生である現高校3年生を対象とした生徒が、現行の入試制度について、どのような考えを持っているかを調査することを目的としている。なお、調査対象については、各学校の各学年1クラスを抽出して調査する。この調査を踏まえ、検討の一つとして考えている。
- ・次の議題にも関わってくるが、31年度選抜の日程の案が出ており、前期・後期になっている。一本化の方でお願いをしたい、そちらの方にいければありがたいと思っているが、基本的には31年度は前期・後期ありきになるのか、その後ということになるのか。
- 現行制度のもとでどこまでということと、新しい仕組みはいつからということがあるが、大きな制度変更になる場合であれば、前期・後期の仕組みの中で運用しているものをどう新しい仕組みに落としこむのかという、制度上の検討があり、これを全県立高校で実施していく体制を作らなければいけない。また、受検する子どもたちへの周知期間を一定程度考える必要がある。そうしたことを考慮しながら、時期等々についても、内容に応じて提示させていただきながら、御意見を賜りたいと考えている。
- ・アンケート(受検意向調査)について、(冒頭の)「以下のような意見が挙げられております」というところは、公平にメリット、デメリットを載せてあるのでいいと思う。一本化という話が出ているが、保護者・子どもたちの方からは前期・後期制がいいという意見が出ている。周りの状況を聞くと、前期・後期式だからこそ、私立を受けなくて済む。要は経済的な負担がなくなるという意見もある。受検するだけでも万単位の費用が掛かるため、それを念出できない家庭もいるということ把握していただきたいと思う。学校の方の負担についても重々承知しており、何年か前から承知しているが、家庭の状況、ない袖は振れないということも加味していただければと思う。

(3) 平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程(案)について

- ・平成31年度の日程については、案Aと案Bの二つを提示した。
- ・国立の木更津工業高等専門学校との兼ね合いはどうなっているのか。高専の合格と入学確約書の提出の関係で不都合が出ないのか。

- 木更津工業高等専門学校に関しては、第3日曜日が試験日、その週の水曜日に発表という日程で来ているので、それを考えると、今回の二つの案については入学確約書の反故の心配はない。
- ・案Aと案Bの違いは、確約書締切日が発表から1日半か2日半あるかということと思うが、案Aは例年通りだが、案Bを作った意味がよくわからない。入学確約書を出すのがほとんど翌日には出されているからか、それとも違う要件があるからか、もう少し説明してほしい。
- 入学確約書の提出が確定して後期の募集人員が確定する。これまで、後期の募集人員を見て、翌日から後期選抜の受付を開始している。中学校側からの、出願に向けて進路指導をする時間が欲しいという要望を踏まえ、従来の入学確約書提出日の翌日を後期選抜の受付日とする案と、入学確約書提出締切日を1日あげることで1日空いたその日を使って、中学校で後期選抜に向けた進路指導をするための案として、二つの日程案を示した。
- ・31年度入学者選抜日程に関わる検討で専門部会を開くという認識でよろしいか。
- 31年度の日程案については、この協議会の中で意見をいただき、今後の入試制度に関しては、専門部会を含めて協議する。
- ・直接的にはないという認識でよろしいか。32年度以降に、例えば専門部会の意見が反映されるとか、逆に31年度は方向性を出して動いていきたいという内容でよろしいか。
- 入試の日程については、毎年度、改善協議会で翌々年度の入試日程について諮っている。専門部会の方は、大きな入試改善等について協議する。

(4) その他

- ・高校入試対策委員会では、例年、校長を中心に、当然校長の意見は職員の意見も反映されている。その中で何らかの形で制度自体を見直すということについては、毎回意見を出させていただいている。今回、専門部会をつくってということになったので、特に子どもをベースにいろいろなことを考えてどういう形の入試制度がよいのか、意見をまとめて皆様にお諮りすることができればと考えている。
- ・前期で終わる学校もあるが、定時制の課程の学校はほとんど追加募集までであるので、3月末まで2か月間ずっと入試をやっている。さらに、年度末は次年度の準備等があり大変である。しかし、入試の主体は中学生である。あくまで主体は中3生それから保護者の方々と思うので、彼らにとってどういう入試の在り方がよいかということを専門部会で検討していただければと思う。
- ・専門部会は細かいところを検討していただければと思うので、次の二つのことも話題にいただければと思う。一つは調査書の総合所見欄について。もう一つは、中学校の校長先生方に比べて、中学生や保護者はそこまで一本化という話はない。中学校長と中3生や保護者の間のずれや差はどういうところから来ているのかということを探っていただければありがたい。
- ・関係者が大変であるということは間違いない。ただはっきりしていることは、すべては子どもたちのためにということで、それを第一において協議会を進めたい。